

2026 年 10 月 15 日

各 位

会 社 名 株式会社 GRCS

代 表 者 名 代表取締役社長 佐々木 慈和
(コード番号：9250 東証グロース)問 合 せ 先 取 締 役 田中 郁恵
(TEL. 03-6272-9191)**特別損失の計上（見込み）及び業績予想の修正に関するお知らせ**

当社は、2026 年 11 月期第 4 四半期会計期間（2026 年 9 月 1 日～2026 年 11 月 30 日）において、特別損失を計上する見込みとなりましたのでお知らせいたします。また当該特別損失及び最近の業績動向を踏まえ、2026 年 1 月 19 日付「2025 年 11 月期決算短信[日本基準]（連結）」で公表いたしました 2026 年 11 月期通期連結業績予想を修正いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上（見込み）について

当社においては、2026 年 11 月期はフィナンシャルテクノロジー事業の業績が期初予想を下回り、当該事業に係る固定資産及びのれんの回収可能性の検討が必要な状況となっております。このため、今後「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき将来の回収可能性を検討してまいります。当該事業に係る資産の帳簿価額を現時点の事業計画を元に見積った回収可能価額まで減額した場合、第 4 四半期会計期間に最大約 353 百万円の減損損失を計上する可能性があります。

2. 連結業績予想の修正

2026 年 11 月期 通期連結業績予想（2025 年 12 月 1 日～2026 年 11 月 30 日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 3,678	百万円 119	百万円 100	百万円 67	円 銭 50.33
今回修正予想（B）	3,569	△130	△157	△512	△350.19
増減額（B－A）	△108	△249	△257	△580	
増減率（％）	△2.9	—	—	—	
（ご参考）前期実績 2025 年 11 月期	3,333	△67	△97	△527	△390.94

3. 修正の理由

2026 年 11 月期の通期連結業績予想については、「1. 特別損失の計上（見込み）について」に記載の減損損失最大約 353 百万円を織り込み、また最近の業績動向を踏まえた結果、業績予想を上表のとおり修正することといたしました。なお、最近の業績動向及び修正の影響額については以下のとおりです。第 3 四半期までの進捗状況および最近の業績動向を鑑み通期見通しを精査した結果、2026 年 1 月 19 日に公表いたしました業績予想を修正することといたしました。

（売上高）

GRC セキュリティ事業は、既存顧客の深耕が順調に推移し、期初予想から 68 百万円増の 2,745 百万円（期初予想比 2.6%増）と売上高が上回る見通しとなったものの、フィナンシャルテクノロジー事業において、前期から中断となっている証券会社の大型プロジェクトについて再開の見込みが立たないことが営業活動に影響し、新規案件の受注 61 百万円、既存顧客へのライセンス販売 115 百万円が計画通りに進捗せず、期初予想から 177 百万円減の 824 百万円（期初予想比 17.7%減）と下回る見込みとなりました。

以上の結果、売上高は期初予想では 3,678 百万円と見込んでおりましたが、修正予想では 108 百万円減の 3,569 百万円（期初予想比 2.9%減）となる見込みであります。

（売上総利益）

GRC セキュリティ事業は、売上高の増加に伴い、期初予想から 34 百万円増の 749 百万円（期初予想比 4.8%増）と売上高総利益が上回る見通しとなったものの、フィナンシャルテクノロジー事業において、売上高が未達となる一方で売上原価における労務費等の固定費用の削減が困難であることから、期初予想から 171 百万円減の 201 百万円（期初予想比 45.9%減）と売上総利益が大幅に減少する見込みです。

以上の結果、売上総利益は期初予想では 1,087 百万円と見込んでおりましたが、修正予想では 136 百万円減の 951 百万円（期初予想比 12.6%減）となる見込みであります。

（営業利益）

フィナンシャルテクノロジー事業の売上高・売上総利益の減少に加え、販売費及び一般管理費については、監査報酬等の支払報酬料 25 百万円、資本金の増加に伴う租税公課 16 百万円、またフィナンシャルテクノロジー事業の前期から中断となっている証券会社の大型プロジェクトに関して既に履行済みの契約資産の一部について回収可能性に疑義が生じた結果、第 4 四半期会計期間に貸倒引当金 81 百万円を計上する見込みであることから、期初予想の営業利益 119 百万円は 249 百万円減の営業損失 130 百万円となる見込みであります。

（経常利益）

営業外費用として、為替変動の影響を受けるもの仮定して為替差損 10 百万円を見込んでおります。さらに、営業損失の減少が大きな要因となり、期初予想の経常利益 100 百万円は 257 百万円減の経常損失 157 百万円となる見込みであります。

（親会社株主に帰属する当期純利益）

「1. 特別損失の計上（見込み）」に記載の通り、フィナンシャルテクノロジー事業に係るソフトウエ

ア 66 百万円及びのれん 286 百万円の未償却分最大 353 百万円を減損損失として計上する可能性があります。その場合当該特別損失の計上が大きな要因となり、期初予想の親会社株主に帰属する当期純利益 67 百万円は 580 百万円減の当期純損失 512 百万円となる見込みであります。

なお、修正予想の数値は、2026 年 11 月期第 3 四半期累計期間の実績値に、2026 年 9 月度の実績値および 10 月・11 月度の見込み値を加算して算出しております。

(注) 上記の予想数値等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上